

「最も小さい者たち」をキャンプに送ろう

ケニアのクリスマスプレゼント募集！



マタイの福音書に「最も小さい者たち」について書かれた箇所があります。それは病気の者、空腹の者、貧しさの極致にある者…こうした「持たざる者」たち、忘れ去られた存在のことです。メトロ・ケニアは、まさに「最も小さい者たち」の発見から始まりました。子どもたちは、肉体的だけでなく霊的にも飢えていたのです。子どもたちは常にサバイバル状態にあります。人生の成功なんて考える余裕もチャンスもありません。ひたすら、今日を生き抜いて明日を迎えられるよう願っているのです。

私たちが日々支援している「最も小さい者たち」は、ただ生き残りをかけて、食べることや学校へ行くこ

とを目指して奮闘しています。遊んだり楽しい時間を過ごすことがどんなものか知ってほしいですし、さらに、実際に体験するべきだと思いませんか？メトロ・ケニアでは、3年前に最初のキャンプを開催しました。子どもたちは初めて、つかの間とはいえ、日々のつらさを忘れることができました。そして、1日に3度の食事を摂ることもできたのです。

次に食事ができるのはいつかわからないような毎日を送る子どもたちにとって、これはめったに経験できない贅沢なのです。スラム街に住むヤロという男の子は、出された食事をふた口だけ食べたかと思うと、残りを袋にしまい込みました。なぜ食べないのか問いかけるスタッフに、ヤロは答えました。「弟や妹にも食べさせたいから持って帰るんだ。」



ケニアのメトロは、小学校で日曜学校を展開していますが、そのうちの1校でのことです。校長室の棚に石投げのパチンコがいくつもあるのに気づいたスタッフは、校長先生に「これは何ですか」と聞きました。それはおもちゃではありませんでした。子どもたちが毎日、学校帰りに鳥を撃つのに使っていたのです。夜はお腹が空くから、何か獲れますように、と。

今年はもっと多くの子どもたちをキャンプに行かせて、これまでにはない経験をさせてやりたいと願っています。日曜学校に来る子どもたちは増え続けていますから、キャンプに送る人数も増やせるよう願っています。子どもたちの心に、一生残る大きな影響を及ぼさずだからです。

あなたのご支援は子どもたちの人生への投資です。ひとりひとりの心に蒔かれた希望の種は、この先の人生で迎える過酷な時期にも心の支えとなってくれることでしょう。



ケニアツアー8月14日〆切！

2ページの案内をご覧ください。ご連絡ください。

ケニアクリスマスプレゼント！

8月29日お申し込み〆切です

詳細は同封の申込書をご覧ください。

今月号の目次

P2…ケニアツアーご案内／ケニア
クリスマスプレゼント

P3～4…フィリピンツアーご感想

P5…今月のデボーション／緊急
特別支援のご案内

P6…重要なお知らせ／日本事務
所連絡先など基本情報

初のケニアツアー参加者募集！

日本から初となる、ケニアの現地ツアーを開催します。

詳細につきましては、参加人数などによって変わってきますので、ご希望の方は、お早めにご意向をお知らせください。

アフリカまで行く機会はなかなかありませんので、現地の方からも観光を予定に入れることをすすめています。そのため日程がほかのツアーより長めになりますが、少々無理をしてもぜひご参加をご検討ください。

メトロ・ケニアの活動拠点は、有名な国立公園にも近く、私たちの計画に合わせて様々な観光スポットがあるそうですので、ご期待ください。

しかし、メインはスラム街の子どもを対象としたメトロの活動の見学、子どもとの面会ですので、単なる観光旅行ではないことをご理解ください。

8月14日
×切

日程：2019年9月19日(木)夜間～28日(土)夕刻(予定)

発着地：関東地方

金額：現地への献金を含め30万円程度

内容：現地の教会学校を見学、スタッフの活動に同行、子どもとの面会、観光、メトロ事務所でのご奉仕など

締め切り：8月14日(水)ですが、できるだけ早くご連絡ください。

催行人数：4名～16名(先着順とさせていただきます)



ケニアのクリスマスプレゼント&クリスマスカード 締め切りは8月29日です

Happy Merry Christmas

ケニアのメトロは、公立の小学校内で活動をしているため、クリスマスの集いを年度末の10月に開催します。

大変早いのですが、クリスマスカードやクリスマスプレゼントをお送りくださる場合は、8月29日までにお願いします。

子どもたちの数も大変多いので、現地では準備や手配に、ボランティアを動員しても1ヶ月近くかかります。

ぜひ、早めのお申し込みにご協力をお願いします。

また、ケニアのキャンプは11月開催ですので、キャンプをクリスマスプレゼントとして贈ることもできます。

クリスマスカードが手に入らない場合は、手作りカードや普通のグリーティングカードでも結構です。

日本語でも大丈夫ですので、日本事務所に8月末までに届くようにお送りください。



*プレゼントの詳細は同封の申込書をご覧ください。

フィリピン視察ツアーのご感想

今年の春開催しましたメトロ・フィリピンの現地視察ツアーにご参加くださった方々のご感想をお届けしています。

三宅由希子様

一番の印象は

この度初めてフィリピン視察ツアーに参加させて頂き、一番感じたことは、我々とは違う文化で生きている子供たちでも、イエスさまが生きて働いておられる世界では、言葉・形が違えども、神様への信仰と祈りは同じである、ということでした。何も知らずにその場に生まれ育ち、イエスさまの救いがなければきっと多くの幼い命が失われたり、成長しながらも悪の世界へと引き込まれたりすることが頻繁に起こるような場所であると感じました。

1日目は Metro のオフィスへ伺い、Hanna 姉より Metro の活動がどういったものか、注意事項などの説明を受け、そして、ある男の子の証しを聞きました。その男の子が一度は教会学校へ来るのを辞め悪の世界へと入ったのですが、イエスさまの導きにより悪の世界より救い出され、今は教会学校で小さな子供を指導する立場になっているそうです。そんな1日目を終えたのですが、その時はまだ現場を想像することすらできませんでした。2日目になり初めて、一緒にツアーに参加された方のスポンサーチャイルドに会いに行きました。その子のお家に行くと、周りには親戚家族が暮らしていて、大人数で1つの小さな家に住んでいる様子でした。とてもシャイな感じの女の子でした。学校で表彰されることが多いみたいで表彰状がお家に沢山飾られていました。そんな優等生の彼女からは、住んでいる場所は小さく大人数で暮らしていると言ってもスラムのイメージはあまり強くは入ってきませんでした。



墓地での衝撃的な光景

さて、2日目にはもう一つ、墓地で暮らしている子供たちのための Side Walk Sunday School がありました。墓地で暮らしていると聞いた時は見学に行くと倒れないだろうか、正直少し不安でした。しかしそこに行くと、子供たちはもちろん、住んでいる人々もとても明るく、墓地にいるとは思えない雰囲気でした。私はとても自分の体の変化に驚き、なぜめまいもなく墓地の中を元気に歩き回れたのか

不思議を覚えました。後で牧師先生にそのことを伝えると、それはキリスト教の「死」の捉え方が他のものとは異なり、死とは天国にいらっしゃるイエスさまの元へ逝き、そこで永遠の命へ続くもので、死の後のこの世への執着心や未練のようなものがない、悲しいものではないためではないかと教えて頂きました。墓地の奥へ進むと共同墓地があり、骸骨がそこら中に袋に入れて捨てられていました。聞くと、そこで住んでいる子供たちは私たちがボールで遊ぶ感覚で頭蓋骨が遊び道具の一つだと伺いました。私たちはその話を聞いた時、衝撃を受けました。ただ、それはそこで暮らす人々の文化でありました。



スラムの生活を体感

3日目は Side Walk Sunday School 2カ所を訪れました。一つ目の場所は、線路沿いのスラムのような場所で、所狭しとたくさん家族が住んでおり、迷路のように家屋が並んでいる中を「Side Walk Sunday School」と呼びかけながら、子供達を誘うために家屋の立ち並ぶ中を歩き回りました。Sunday School では1日目で見学して学んだ歌やダンスをしながら、お行儀良く参加している子供達にはキャンディをあげました。二つ目の場所はスモークマウンテンと呼ばれるゴミの山の横に建てられた大きな建物が並ぶプロジェクトハウスでした。そのビルの中に入って行き、また「Side Walk Sunday School!」と元気よく子供達を呼びに行くのですが、ビルの中は鶏や猫や犬、また尿の臭いなどが入り混じった日本では嗅いだことのないような臭いに包まれていました。



ただ不思議なことに、強い臭いを感じたのは初めだけで、慣れると全く臭いが気にならなくなっていました。ここに住んでいる人々も生まれた時からこの生活に馴れ親しみ、きっとそこでの暮らしが普通になっているのだと知りました。



自分を見つめ直す時を与えられ

その Side Walk Sunday School で私がとても気になった子供達がありました。二人の小さな姉妹でした。その姉妹は周りの子供達より服も少し薄汚れた感じで、お姉さんの方が一生懸命に妹をかばいながら生きている光景でした。妹の方がより天真爛漫な感じで全く落ち着きがなく、二人は走り回っていました。私が腰を下ろした次の瞬間、その姉妹がピタッと私の両脇に寄り添ってきました。私が、みんなのところに行き参加する様に促しても首を振って私の側から離れませんでした。きっと私が座るとこの子供達も一緒に座るんだらうと思い、みんながいるブルーシートの上に、靴を脱いで足を組んだ胡座をかくような、フィリピンで言ういわゆる正座のように座りました。私がやって見せると、その姉妹も頑張って参加していました。その時、どこで暮らそうとどんな生活をしてようと、小さな子供達が生きるには愛着というものが重要だと実感しました。私はその姉妹二人ともスポンサーになってあげられれば、と深く心に感じました。

またもう一人の小さな男の子がいました。その男の子は暑かったからなのか、履くのが嫌なのか、はたまた履くパンツやズボンがなかったのか、下半身素っ裸で走り回っていました。あまりの見慣れない光景に私は戸惑いつつ、軽く頭を撫でて愛着を示すことしかできませんでした。その夜のミーティングで万代牧師が選ばれた聖書の箇所は、『わたしは裸の



時に服を与え、病気の時や、牢獄にいた時には見舞ってもらいました。』するとこれらの正しい人たちは答えるでしょう。『王様。私たちがいったいつ、あなたに食べ物を差し上げたり、水を飲ませたりしたでしょうか。また、いったいつ、あなたをお泊めしたり、服を差し上げたり、見舞いに行ったりしたでしょうか。』『あなたが、これらの困っている一番小さい人たちに親切にしたのは、わたしにしたのと同じなのです。』(マタイ 25:36-40 を参照) とありました。私の胸中は自分の偽善者加減に恥を覚えました。どうして私は見ない振りをしたんだらう? どうして小さな男の子に服を着せてあげられなかったんだらう? 私は自分の浅はかさに戸惑いました。

子供たちに本当に必要なものは

フィリピン視察旅行で学んだことは、大きな文化の違いでした。しかし、フィリピンの人々にも日本人の様に尊敬を表す挨拶の仕方があったり、行儀よく座る作法がありました。そして何より、お祈りの仕方は世界中同じで、みんな熱心に目を瞑り手を合わせたり、手を神に手向けてイエスさまからの恵みを受け取っていました。ただ生まれ住む場所が異なり、我々とは違う言葉話し、違う食べ物を食し、私たちの「普通」では考えられない様な環境で暮らしていたのです。みんな笑顔がとても素敵な子供たちでした。どこで生まれ育とうと子供たちには皆、親からの愛着が必要だということでした。幼児期に親の愛着を受けずに育った子供は、成長過程で迷いや困難があった時に正しい道を見つけられず自分を見失ってしまいます。また親からの間違った愛着を受けても同じことが起こり得ます。



では、どうすれば小さな子供たちを守るのか? 私たちには正しい指導者が必要です。主イエス・キリストを礼拝することにより私たちは正しい知識や知恵を得、子供たちを正しい道へと導くことができます。聖書を読み聞かせ、イエスさまからの無限の愛を得ることができます。また主イエス・キリストの御名によってお祈りすることで、私たちの思いや悩みを主が解決して下さいます。また祈り合うことで、困難から脱出することができます。

人の力や業では救われることは不可能です。しかしどんなに育った環境が違おうと、どこかの国の文化背景を持っていても、我々人類はたった一人のお方、主イエス・キリストによって救われるのです。

2019年8月 今月のデポーション by ビル・ウィルソン

決めるのは心ひとつ

あなたは問題を起こす側になるか？解決する側になるか？

ヨーロッパ、アジア、南アメリカ、アフリカ、アメリカ…あらゆる場所で私は人間同士の争いの恐ろしさを目の当たりにします。そう、あらゆる場所で。日々絶え間なく、あなたがこうしてデポーションを行っている瞬間も、あらゆる都市に、国に、他人を傷つけないことには一日が終わらないという人々がいるのです。

「なぜそんな恐ろしいことが？」ニュースを見るたびに理解に苦しみ、例の言葉が思わず口をついて出ます。それは、ホロコーストで600万人ものユダヤ人が犠牲になったことを知った多くの人々が口にしたのと同じ言葉です。「神はどこにいたのか」。しかし、このような疑問を抱くのは間違いです。神のせいではないのですから。私たちはそれぞれが、問題を起こす側になるのか、問題を解決する側になるのかのいずれかであって、中立ということは有り得ません。どちらに属するかは自分自身の責任です。他人事ではないのです。

「ここまでだ！こんな疫病が蔓延するのを黙って見ているわけにはいかない。私が立ち上がる！」あなたには今、そう言ってストップをかける力があります。こんなことを言うと、「全身全霊で取り組み」と言われている気がして恐れをなしたり、すでに自分の役割があって、これ以上何もできないと思われる方々が多いのですが、身近なところから始めればよいのです。ご自分の教会でも、ご自宅の近所や自治会でも、さらには家族という小さな社会の中であっても。

問題を解決する側になることを決心したあなたには、神の力が備わります。そこからは、「神はどこにいたのか」ではなく、「私はどこにいたのか」、「私は何をしていたのか」、と自問しなければなりません。

2019年も後半に入りました。あなたにはぜひ、問題を解決する側に立つ決断を、今、していただきたいのです。複雑な問題に私たちがキリストと共に立ち向かう時、その人生を変えることのできる人々の数は無限です。祝福を祈ります。

心を込めて

創立者・主任牧師 ビル・ウィルソン



緊急特別支援募集中！

メトロでは、現在以下の献金を緊急募集しています。ご支援いただければ幸いです。どちらも日本事務所にご連絡ください。

●ケニア Gilgil 開設支援！

ケニア政府の依頼により新しい地域の学校でメトロの教会学校を始めることになりました。開設には多くの費用が必要になりますが、2万人の子どもが参加する予定ですのでぜひご協力ください。

① 道端教会学校用中古トラック

1台70万円×1台（新車献品の場合は220万円）

② 拠点開設費

1口5万円×80口募集

●メトロスタッフを支え共に走ろう

Run-With-One プロジェクト！

メトロのスタッフは、経費節減のため最低限の収入で日夜奮闘しています。海外からの宣教師的スタッフや、母教会や宣教団体などの支援を集められるスタッフもいますが、単独の献身者やスラム街育ちのスタッフは外部からの支援がありませんので、スタッフを続けることが困難な場合もあります。メトロの働きを継続するためにも、ぜひ、スタッフのご支援をお願いいたします。

ビル・ウィルソンセミナー2019 DVD & CD 販売中

今年全セミナーの中からのベストセレクション
2回分の録画DVD・録音CDを販売中です。

DVD2回セット価格3,500円

CD2回セット価格2,500円

*どちらも別途
送料210円

いずれもお申し込み先は

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン

TEL(03)3561-0174

FAX(089)925-1501

e-mail: metrojapan@mission.or.jp

スタッフ支援方法

お申し出いただきました方には、支援の必要なスタッフをご紹介します。

スタッフひとりにつき、ひと月5,000円以上のご希望金額をお決めいただき、毎月口座引き落としでご支援いただけます。

また、手紙やメールのやり取りでスタッフを励ましたり、祈りの課題を聞いて祈ることもできます。

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

アップデートカード同封！

2019 年度最新版のメトロの活動内容をお送りします。同封の3つ折りの資料をご覧ください。個人的にメトロをご紹介くださる場合は、ご希望部数をお知らせいただければお送りします。

皆様のご支援により、メトロでは、世界各地で活動を展開することができています。ここに掲載されていない地域でも、小さな活動拠点が世界中に増えています。皆様のご支援と背後でのお祈りに心から感謝します。

ケニアでは、新たに別の地域の公立小学校内で活動を始めることになり、一挙に2万人の子どもたちに福音を伝えるチャンスが与えられました。素晴らしい事柄が日々世界中で起こっています。

今年のアメリカツアー予定！

今年のアメリカツアーは、ビル先生が本部にいる日程、10月31日(木)～11月5日(火)までの予定で調整中ですので、参加ご希望の方は今からスケジュール調整をお願いします。

アメリカの子どもたちのスポンサーの方は、子どもに直接会うチャンスです。

また、それ以外の方々も、メトロの本部に行き、この働きの原点の場所で、直接活動を見ることができ、本部ビルの見学や、スタッフミーティングへの参加、道ばた教会学校の見学、子どもたちの訪問に同行、圧巻の屋内の教会学校を体感し、ほかのツアーでは絶対に味わえないアメリカを体感する絶好の機会です。

！ スポンサー代金改定

メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するために、子どもたちのスポンサー代金を今年からひと月5,000円に変更しました。

日本事務所でも、スポンサーの方々には、3月のレポートにビル・ウィルソン師からの手紙で変更のご依頼をお知らせしました。たくさんの皆様、スポンサー代金の引き上げをご了承くださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだご検討いただいていない場合は、ぜひ3月号に同封のビル先生からの手紙をご一読いただき、大変お手数ですが、日本事務所までご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

日本事務所よりごあいさつ！

梅雨明けとともに暑い日々が続いていますが、皆さんお元気でしょうか？

7月のセミナーは皆様に大反響をいただき、今回は、フィリピンのインターンシップに、日本からも3名の方がご参加の予定です。大きな成果を手にして帰国されることと期待しています。

ケニアツアーも締め切り間近です。ぜひすぐにお申し込みください。日本の私たちには想像もできない素晴らしい体験となるはずですよ。

夏は各教会とも聖会やキャンプなどがあり、活動的な季節です。皆様の生活の中にも生き生きとした証しがたくさん生まれますようにと願っています。

ご支援とお祈りに心から感謝し、皆様の上にも主からの守りと導きをお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン